

## 特集テーマ

### 一八八〇年代における高等普通教育と専門教育の再編 I

年に平均三回ペースで開いている本研究会では、毎回個々人の関心に基づいた多様な報告が行われており、発表内容についてのしぼりは設けていない。しかし、研究会がこれまで積み重ね、また今後も取り組むべき課題を包括的に言い表すならば、「一八八〇年代における高等普通教育と専門教育の再編」ということになろう。二〇〇五年十月の教育史学会で設けたコロキウムテーマ「一八八〇年代日本教育史の再検討にむけて——高等中学校は何故、どのようにできたのか」もこの枠内に位置するものである。

本年（二〇〇九年）六月の研究会において、以上の旨が確認され、各自が直接的にであれ間接的にであれ、このテーマを意識して、今後の研究を進めていくことで合意を得た。それに伴い、ここに刊行する『研究年報』にも、当面このテーマを掲げた特設欄を設置し、関連論考を掲載していくこととした。研究会としてのまとまった成果につながることを期待される。

今回は、高等普通教育の再編経緯を実態分析を通じて論じた神辺論文、専門教育の再編過程を運動・政策史の見地から検討した田中論文、再編後の学校行政のシステム解明に取り組んだ鄭論文を収録した。